

健康科学科

石田直章

B (論文)					
著書, 論文等の名称	単著 共著	発行・ 発表年月	発行所, 発表雑誌 (及び巻号数)等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数
1. Para Powerliftingにおける適切なベンチプレス・フォームの確立に向けた運動生理学的アプローチ - 健常者のベンチプレス時の動作分析から確認できること -	共著	2017年12月	愛知学院大学論叢 心身科学部紀要13号	石田直章, 菅嶋康浩	pp. 7 - 21
2. Para Powerliftingにおける適切なベンチプレスフォームの確立に向けた筋電図学的研究 - 健常者の一流男子選手によるベンチプレス動作からの考察 -	共著	2018年 3月	朝日大学保健医療学部 健康スポーツ科学科紀 要第 1 号	菅嶋康浩, 石田直章, 加藤 尊, 本田亜希子, 山本英弘	pp.51 - 58
D (学会発表等)					
演題の名称	発表 形式	発表年月	学会等名称, 開催地	発表者	
1. CAN THE TIME-SERIES ANALYSIS OF BENCH PRESS FORM BY THREE-DIMENSIONAL MOTION ANALYSIS CONTRIBUTE TO THE PROBABILITY OF AN APPROPRIATE FORM IN PARA POWERLIFTING?	学会 発表	2018年 7月	23ed European College of Sport Science Dublin	石田直章	
2. Paralympicを科学で支える Para Powerliftingを運動生理学で支援する	学会 発表	2018年 9月	第 4 回日本健康レクリ エーション学会	石田直章	
3. パラパワーリフティング選手のベンチ プレス動作の基礎的研究	学会 発表	2018年 9月	第31回日本トレーニン グ科学会大会(東海学 園大学)	菅嶋康浩, 石田直章, 加藤 尊, 本田亜希子, 山本英弘	

伊藤高行

D (学会発表等)					
著書, 論文等の名称	単著 共著	発行・ 発表年月	発行所, 発表雑誌 (及び巻号数)等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数
1. Differing cell-intrinsic properties between forebrain and spinal cord oligodendroglial lineage cells	学会 発表	2017年11月	Annual meeting of Society for Neuroscience 2017, Washington, DC, USA	Horiuchi M, Horiuchi-Suzuki Y, Akiyama T, Itoh A, Pleasure DE, Carstens EE and Itoh T	

大澤 功

B (論文)					
著書, 論文等の名称	単著 共著	発行・ 発表年月	発行所, 発表雑誌 (及び巻号数)等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数
1. 特集: 学校保健の研究力を高める - 質的研究でわかること - 「学校保健研究」における質的研究の展開.	単著	2018年 2月	学校保健研究. 59巻 6 号	大澤 功	pp.398 - 400
2. 特集: 大学が行う多様な学生サポートの試み, 体育・スポーツ系学生に必要な健康サポート.	単著	2018年 5月	CAMPUS HEALTH. 55巻 2 号	大澤 功	pp.61 - 64

C (翻訳・資料)					
著書、論文等の名称	単著 共著	発行・ 発表年月	発行所、発表雑誌 (及び巻号数)等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数
1. 大学生に対するリプロダクティブ・ヘルス/ライツ支援と教育～官学・学学連携の展開～.	共著	2018年3月	CAMPUS HEALTH. 55巻1号	糠谷敬子, 森山恭子, 外ノ池隆史, 宇野智子, 青山節子, 都築一夫, 後藤真紀, 岩瀬 明, 大澤 功	p.201
D (学会発表等)					
演題の名称	発表 形式	発表年月	学会等名称、開催地	発表者	
1. 学校保健領域における研究デザインの動向～過去10年間の「学校保健研究」掲載論文についての調査～.	学会 発表	2017年11月	日本学校保健学会第64 回学術大会, 仙台	井澤昌子, 大澤 功	
2. 文部科学省が示す希望者を募っての色覚検査の事後措置はどのようなものか?	学会 発表	2017年11月	日本学校保健学会第64 回学術大会, 仙台	高柳泰世, 宮尾 克, 大澤 功	
3. 学校保健の研究力を高める～質的研究でわかること～.	シン ポジ ウム 座長	2017年11月	日本学校保健学会第64 回学術大会, 仙台	大澤 功, 鈴江 毅	
4. 大学生に対するリプロダクティブ・ヘルス/ライツ支援と教育～官学・学学連携の展開～.	学会 発表	2017年11月	第55回全国大学保健管 理研究集会, 宜野湾	糠谷敬子, 森山恭子, 外ノ池隆史, 宇野智子, 青山節子, 都築一夫, 後藤真紀, 岩瀬 明, 大澤 功	
5. 健康起因事故防止対策	講義	2018年8月	愛知県トラック協会物 流管理者安全研修, み よし	大澤 功	
6. 健康起因事故防止対策	講義	2018年9月	愛知県トラック協会物 流管理者安全研修, み よし	大澤 功	
7. 事故防止のための健康管理	講義	2018年9月	愛知県トラック協会物 流安全管理士講座, み よし	大澤 功	

城戸裕子

A (著 書)					
著書、論文等の名称	単著 共著	発行・ 発表年月	発行所、発表雑誌 (及び巻号数)等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数
2018社会福祉士国試対策 過去問題集 専門科目編2016	共著	2018年5月	福祉教育カレッジ 医学評論社	城戸裕子他	pp.146-171
公認心理師の基礎と実践シリーズ第17巻福祉心理学 第14章 福祉・介護分野での多職種共働(IPW)と心理職の位置づけ	共著	2018年5月	遠見書房	中島健一編者 城戸裕子他	pp.183-194
2018社会福祉士全国統一模擬試験解説書	共著	2018年10月	(株)テコム 福祉教育カレッジ	城戸裕子他	pp.192-207
B (論 文)					
著書、論文等の名称	単著 共著	発行・ 発表年月	発行所、発表雑誌 (及び巻号数)等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数
保育士を目指す大学生が施設実習に対して抱く不安とその変化について ～実習前・実習中における不安の変化に焦点を当てて～	共著	2018年1月	浜松学院大学教職セン ター紀要	小佐々典靖, 城戸裕子, 鈴木 靖之	pp.39-52
アロマセラピー活用を通しての教育的効果の検証～看護学への導入から～	単著	2018年5月	日本アロマセラピー学 会	城戸裕子	pp.25-32

D (学会発表等)					
演題の名称	発表形式	発表年月	学会等名称、開催地	発表者	
愛知県福祉サービス 第三者評価評価者養成研修	講師	2017年12月	愛知県社会福祉協議会 (愛知県)	城戸裕子	
社会福祉法人 明和会 福祉研究発表会	コメンテーター	2018年2月	静岡県袋井市	城戸裕子	
第19回日本認知症ケア学会大会～あなたの隣にいます～認知症の人もわたしも	示説座長	2018年6月	新潟県新潟市 (朱鷺メッセ)	城戸裕子	
東北福祉大学通信教育学部 介護概論	講師	2018年6月	東京都新宿区 (四谷キャンパス)	城戸裕子	
社会福祉法人 明和会 福祉研修会	講師	2018年9月	静岡県袋井市	城戸裕子	
防災キャンプから考える防災教育と教育的効果の検証	学会発表	2018年9月	日本社会福祉学会、金城学院大学(愛知県)	城戸裕子, 小佐々典靖	

下村淳子

B (論文)					
著書、論文等の名称	単著 共著	発行・ 発表年月	発行所、発表雑誌 (及び巻号数)等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数
1. ピア・エデュケーションを用いた学校保健委員会による健康課題の変化	共	2018年6月	養護実践研究1(1)	松原紀子, 塩澤みちよ, 下村淳子	pp.35-46
2. 新規採用養護教諭の保健管理に関する自己評価の変化	共	2018年9月	東海学校保健研究42(1)	下村淳子, 林 典子, 鎌塚優子, 井澤昌子, 出川久枝, 松原紀子	pp.49-60
3. 保育者による子どもの健康観察の教育内容-判例からの検討-	共	2018年9月	金城学院大学論集人文科学編15(1)	藤井紀子, 福田博美, 小川真由子, 下村淳子	pp.120-126
C (翻訳・資料)					
著書、論文等の名称	単著 共著	発行・ 発表年月	発行所、発表雑誌 (及び巻号数)等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数
1. 養護教諭養成大学における教育課程の現状に関する調査結果報告(教育課程・法制度検討委員会報告)	共	2018年9月	日本養護教諭養成大学協議会事業活動報告書2017年度版	大川尚子, 下村淳子, 上原美子, 奥田紀久子, 上村弘子, 加納亜紀, 大野泰子, 大嶺智子, 鎌田尚子, 北口和美, 塚原加寿子	pp.60-84
D (学会発表等)					
演題の名称	発表形式	発表年月	学会等名称、開催地	発表者	
1. 背部中央へのさするタッチによる脳活動の変化	学会発表	2017年11月	第64回日本学校保健学会学術大会(仙台市)	森田一三, 下村淳子, 林 典子, 戸田須恵子, 佐久間重光	
2. 背部中央への「さする」タッチによる温度変化と「あてる」タッチとの比較	学会発表	2017年11月	第63回日本学校保健学会学術大会(つくば市)	下村淳子, 林 典子, 戸田須恵子, 井澤昌子	
3. 保健室来室児童生徒への養護教諭の関わり方に関する研究 -養護教諭が児童生徒に対して行うタッチの現状-	学会発表	2017年11月	第63回日本学校保健学会学術大会(つくば市)	林 典子, 下村淳子, 戸田須恵子, 井澤昌子	
4. 中学生の運動中に生じた負傷の発生要因に関する研究-準備運動中の負傷に焦点をあてて-	学会発表	2017年11月	第63回日本学校保健学会学術大会(つくば市)	下村淳子, 久保仁美, 渡邊智之, 佐藤祐造	
5. 児童・生徒の負傷の発生要因に関する研究-コホートの分析-	学会発表	2017年11月	第63回日本学校保健学会学術大会(つくば市)	渡邊智之, 久保仁美, 下村淳子, 佐藤祐造	
6. 保健室の予算-予算がないからと生徒のためになることも諦めていませんか?-	講演会講師	2017年11月	現場で活かせる養護教諭のためのセミナー2017in 名古屋(名古屋)		

7. 養護教諭の行う健康相談－今、あらためて普段の実践を見直す－	研修会講師	2017年12月	平成27年度愛知県立学校新規採用養護教諭研修会(東郷町)		
8. 養護教諭が行うタッチに関する研究	話題提供	2018年2月	東海学校保健学習会(名古屋市)	林典子, 下村淳子, 戸田須恵子	
9. 脳内酸化ヘモグロビン濃度変化から捉える養護教諭のタッチ効果	研究成果発表	2018年3月	心身科学研究所研究会	下村淳子, 森田一三, 林典子, 戸田須恵子, 佐久間重光	
10. 高校生から相談されるデートDV被害の特徴－相談内容のテキスト分析をもとに－	学会発表	2018年3月	日本健康相談活動学会第14回学術集会(徳島市)	下村淳子, 赤澤淳子, 井ノ崎敦子, 上野淳子, 松並知子	
11. デートDV予防・防止プログラムの実施	学会発表	2018年3月	日本健康相談活動学会第14回学術集会(徳島市)	赤澤淳子, 井ノ崎敦子, 上野淳子, 下村淳子, 松並知子	
12. 保健室来室児童生徒に対して, 養護教諭が行うタッチの現状－対応プロセスとタッチの関係について－	学会発表	2018年3月	日本健康相談活動学会第14回学術集会(徳島市)	林典子, 石田敦子, 下村淳子, 鎌塚優子	
13. 高等学校の短距離走, 持久走・長距離走における負傷部位の比較	学会発表	2018年3月	第22回日本体力医学会東海地方会(名古屋市)	三浦卓, 下村淳子, 宮下大典, 佐藤祐造	
14.	事務局長	2018年7月	日本養護実践学会第1回学術集会		
15. 効果的な健康相談とタッチの技法	研修会講師	2018年8月	平成30年度三重県立養護教諭職務推進研修3(津市)		
16. 組織マネジメントと保健室経営	研修会講師	2018年8月	平成30年度養護教諭10年経験者研修講師(名古屋市)		
17.	指導助言	2018年9月	平成30年度岡崎市教育研究大会(学校保健)		
18. 新規採用養護教諭の保健教育および健康相談に関する自己評価の変化	学会発表	2018年9月	第61回東海学校保健学会(鈴鹿市)	下村淳子, 林典子, 鎌塚優子, 井澤昌子, 出川久枝, 松原紀子	
19. Hyper-QUの結果と生活習慣の関連－セルフエスティームの改善のために－	学会発表	2018年9月	第61回東海学校保健学会(鈴鹿市)	出川久枝, 外ノ池隆史, 下村淳子, 渡邊智之	
20. 高校生および大学生におけるデートDV予防・防止に向けて(1)－暴力行為加害の規定要因について－	学会発表	2018年9月	日本心理学会第82回大会(仙台市)	赤澤淳子, 井ノ崎敦子, 上野淳子, 下村淳子, 松並知子, 青野篤子	
21. 高校生および大学生におけるデートDVの予防要因(2)－デートDV被害について－	学会発表	2018年9月	日本心理学会第82回大会(仙台市)	上野淳子, 赤澤淳子, 井ノ崎敦子, 松並知子, 青野篤子, 下村淳子	
22. 高校生および大学生におけるデートDV予防・防止に向けて(3)－青年期の恋愛関係における親密性と本来感の関連－	学会発表	2018年9月	日本心理学会第82回大会(仙台市)	井ノ崎敦子, 赤澤淳子, 上野淳子, 松並知子, 下村淳子, 青野篤子	
23. 高校生および大学生におけるデートDV予防・防止に向けて(4)－デートDVに関する保健教育の実施状況と養護教諭の抱える課題－	学会発表	2018年9月	日本心理学会第82回大会(仙台市)	下村淳子, 赤澤淳子, 井ノ崎敦子, 上野淳子, 松並知子, 青野篤子	

水藤弘史

B (論文)					
著書, 論文等の名称	単著 共著	発行・ 発表年月	発行所, 発表雑誌 (及び巻号数)等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数
1. 最大と最大下泳におけるクロール泳中のキック動作方向の比較	共著	2017年12月	スポーツ健康科学研究(39)	佐藤大典, 水藤弘史, 草薙健太, 水上拓也, 高橋繁浩	pp. 1 - 7
2. 弓道の立射における成功試技での筋活動について－上半身, 下半身計8部位に着目して－ start performance in male competitive swimmers.	共著	2018年1月	スポーツ医・科学 MIE, 25	杉田正明, 伊藤紀美子, 水藤弘史, 八木規夫	pp.13 - 20

3. 弓道の立射における的中率と的中位置および矢の起動と挙動について	共著	2018年1月	スポーツ医・科学 MIE, 25	水藤弘吏, 杉田正明, 伊藤紀美子	pp.21 - 24
D (学会発表等)					
演題の名称	発表形式	発表年月	学会等名称, 開催地	発表者	
1. 競泳キックスタートの異なる脚配置における跳び出し動作について	学会発表	2018年8月	日本体育学会第69回大会(徳島大学常三島キャンパス / あわぎんホール)	水藤弘吏, 尾関一将, 池上康男	
2. Muscle activity characteristics of a swimmer's front and rear leg during a kickstart: Objected for elite swimmer case study	学会発表	2018年9月	XIII th International Symposium on Biomechanics and Medicine in Swimming (Tsukuba)	Daisuke Sato, Hiroshi Suito, Takuya Mizukami, Kenta Kusanagi, Shigehiro Takahashi	
3. Relationship between the take-off velocity and the kinematic and kinetic variables during swimming kick start	学会発表	2018年9月	XIII th International Symposium on Biomechanics and Medicine in Swimming (Tsukuba)	Kazumasa Ozeki, Hiroshi Suito, Shinji Sakurai	
4. The effect of different combinations of foot positions on the kick-start performance	学会発表	2018年9月	XIII th International Symposium on Biomechanics and Medicine in Swimming (Tsukuba)	Hiroshi Suito, Kazumasa Ozeki, Yasuo Ikegami	

辰巳 寛

B (論文)					
著書, 論文等の名称	単著 共著	発行・ 発表年月	発行所, 発表雑誌 (及び巻号数)等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数
1. Clinical significance of cognitive rehabilitation and psychoeducational intervention on family caregivers of the posterior cortical atrophy: A longitudinal study	共著	2017年10月	Psychogeriatrics 18・1	Tatsumi H, Yamamoto M, Yasui M, Miyake T	pp.77 - 79
2. 胸部食道癌術後における重度嚥下障害の病態とリハビリテーション	共著	2017年12月	白鳳短期大学研究紀 要, 12	木村 航, 辰巳 寛	pp.49 - 56
3. 失語症治療の概説	共著	2018年9月	Medical Rehabilitation 227	辰巳 寛, 甘利秋月	pp. 8 - 13
D (学会発表等)					
演題の名称	発表形式	発表年月	学会等名称, 開催地	発表者	
1. 表記不能型ジャルゴンがみられ言語理解が良好な失語症者の発話に関する検討	研究会	2018年2月	第2回三重神経心理研究会(津市)	坪井丈治, 辰巳 寛	
2. 左前頭葉損傷により超皮質性失語を呈した一例	研究会	2018年3月	第1回八事 ST 連携カンファレンス	辰巳 寛	
3. 失語症リハビリテーションの展望	講演会	2018年4月	愛知県士会新人研修会	辰巳 寛	
4. 左 MCA 領域の病巣にて非定型失語を呈した症例	研究会	2018年5月	第2回八事 ST 連携カンファレンス	辰巳 寛	
5. 代償手段を用いて音韻想起を試みた音韻性失名詞の1例	学会	2018年6月	第19回日本言語聴覚学会(富山)	玉腰昌樹, 木村 航, 辰巳 寛	
6. 重度喚語障害を呈した伝導失語の1例	学会	2018年6月	第19回日本言語聴覚学会(富山)	金森薫子, 辰巳 寛	
7. 左皮質下出血にて深層室読・失書を呈した症例	研究会	2018年7月	第3回八事 ST 連携カンファレンス	辰巳 寛	

外ノ池隆史

B (論文)					
著書, 論文等の名称	単著 共著	発行・ 発表年月	発行所, 発表雑誌 (及び巻号数)等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数
外傷の記憶と再演-複雑性PTSDの治療-	単	2018年	心身科学 愛知学院大学 心身科学研究所紀要 10(1)35-44	外ノ池隆史	
D (学会発表等)					
演題の名称	発表 形式	発表年月	学会等名称, 開催地	発表者	
色覚多様性と就職~自分の身体について知 っておく権利~	共	2017年11月	第55回全国大学保健管 理研究集会	外ノ池隆史, 糠谷敬子, 森山恭子	
大学生に対するリプロダクティブ・ヘルス /ライツ支援と教育~官学・学学連携の展 開~	共	2017年11月	第55回全国大学保健管 理研究集会	糠谷敬子, 森山恭子, 外ノ池隆史, 宇野智子, 青山節子, 都筑一夫, 後藤真紀, 岩瀬 明	
Hyper-QU の結果と生活習慣の関連-セル フエステームの改善のために-	共	2018年 9月	第61回東海学校保健学 会学術集会	出川久枝, 渡邊智之, 下村淳子, 外ノ池隆史	

内藤正和

D (学会発表等)					
演題の名称	発表 形式	発表年月	学会等名称, 開催地	発表者	
都市計画と整合性を持つスポーツ政策に関 する一考察-外部性を視点として-	学会 発表	2017年12月	日本体育・スポーツ政 策学会第27回大会(筑 波大学)	内藤正和, 横山勝彦	
スポーツと栄養を経営に活かす	講演 会	2018年 2月	いちい信用金庫次世代 倶楽部講座(一宮市)	内藤正和	
地方自治体におけるポジティブ・ウェル フェアの推進に関する一考察~スポーツ政策 と文化政策の融合を視点として~	研究 発表	2018年 7月	2018年度文化経済学会 (日本)研究大会(同志 社大学)	内藤正和, 横山勝彦	

長崎 大

B (論文)					
著書, 論文等の名称	単著 共著	発行・ 発表年月	発行所, 発表雑誌 (及び巻号数)等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数
教育講演5、糖尿病の運動療法: 体質改善 を目指して	共著	2018年 6月	日本体質医学会雑誌別 刷, 80(2)	佐藤祐造, 森 圭子, 宇野智子, 長崎 大, 濱島一樹, 小栗直子	pp.60-68
D (学会発表等)					
演題の名称	発表 形式	発表年月	学会等名称, 開催地	発表者	
スポーツ栄養学	模擬 授業	2017年12月	日進西高等学校, 日進	長崎 大	
軽負荷ジャンプスクワットと高負荷スクワ ットにおけるトレーニング効果の比較	共著	2017年12月	第6回日本トレーニン グ指導学会大会	菅野昌明, 長崎 大, 島 典広, 仲立 貴, 萩野 葵, 齊藤 満	
筋肉をしなやかに育てる食事と運動	運動 教室	2018年 1月	平成29年度なごや健康 カレッジ, 名古屋, 日本 福祉大学	長崎 大	
安全に運動をするためのスポーツ栄養学~ 水分補給に着目して~	講義	2018年 2月	平成29年度 第2回 保 健事業指導者支援事 業, 四日市, 三重県四日 市市役所健康づくり課	長崎 大	
ロコモ予防のための筋力とバランス能力向 上トレーニング	実技	2018年 2月	平成29年度 第2回 保 健事業指導者支援事 業, 四日市, 三重県四日 市市役所健康づくり課	長崎 大	

総会事務局長		2018年3月	第7回 健康運動指導士養成大学全国連絡協議会総会, 愛知会場	長崎 大	
スポーツ栄養学	模擬授業	2018年3月	愛知高等学校, 名古屋	長崎 大	
スタミナづくりのためのスポーツ栄養学	講義	2018年3月	平成29年度トレーニング指導スキルアップ講習会スケジュール, 愛知会場, 日本本健康運動指導士会・特定非営利活動法人日本トレーニング指導者協会	長崎 大	
スポーツ栄養学	模擬授業	2018年5月	清林館高等学校, 愛西	長崎 大	
他動式体幹運動機器を用いた運動が糖代謝に及ぼす急性効果	学会発表	2018年5月	第61回日本糖尿病学会, 東京	宇野智子, 長崎 大, 梶岡多恵子, 佐藤祐造	
スポーツプログラミング演習	模擬授業	2018年8月	夏のオープンキャンパス, 日進, 愛知学院大学	長崎 大	

西田 保

B (論文)					
著書, 論文等の名称	単著 共著	発行・ 発表年月	発行所, 発表雑誌 (及び巻号数)等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数
1. 陸上競技における失敗でのネガティブ感情が動機づけに及ぼす影響: 失敗の程度およびネガティブ感情の内容に着目して	共著	2018年3月	愛知学院大学心身科学研究紀要心身科学, 10巻1号	今井美希, 西田 保	pp.45-53
D (学会発表等)					
演題の名称	発表形式	発表年月	学会等名称, 開催地	発表者	
1. ゴルフ心理学	講義	2017年12月	2017年度PGA入会セミナー, 東京	西田 保	
2. スポーツ動機づけ研究会	主催	2018年5月	第16回スポーツ動機づけ研究会, 東京	西田 保	
3. スポーツにおける負けず嫌いの測定	学会発表	2018年5月	第16回スポーツ動機づけ研究会, 東京	西田 保	
4. Motivation in Sports and "Sense of Social Togetherness"	学会発表	2018年7月	23rd Annual Congress of European College of Sport Science. Dublin, Ireland.	Tamotsu Nishida	
5. ゴルフ心理学	講義	2018年7月	2018年度PGAティーチングプロB級講習会, 掛川	西田 保	

早川統子

B (論文)					
著書, 論文等の名称	単著 共著	発行・ 発表年月	発行所, 発表雑誌 (及び巻号数)等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数
1. 神経発達障害における行動特性・感覚処理と認知機能の多様性に関する検討	共	2018年3月	愛知学院大学心身科学研究紀要, 10巻1号	石川仁美, 牧野日和, 町田祐子, 早川統子, 古川博雄, 辰巳 寛, 山本正彦	pp.63-76
C (翻訳・資料)					
著書, 論文等の名称	単著 共著	発行・ 発表年月	発行所, 発表雑誌 (及び巻号数)等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数
1. 口蓋裂言語のスピーチセラピー (Therapy techniques for cleft palate speech & related disordersの日本語訳)	単	2018年6月	一般社団法人口腔保健協会, 東京		

D (学会発表等)					
演題の名称	発表形式	発表年月	学会等名称, 開催地	発表者	
1. 音声言語 Workshop 2 「口蓋裂言語評価」 アメリカ人 SLP による CAPS-A-AM 基準での日本語音声の評価 - 開鼻声と構音障害 -	学会発表	2018年 5 月	第42回日本口蓋裂学会 学術集会(大阪)	早川統子, 緒方祐子, 藤原百合, 鈴木恵子, 今井智子, 木村智江, 山下夕香里, 武井良子, 佐藤亜紀子, 杉山千尋, 今村亜子, Adriane Baylis, Kathy Chapman	
2. 音声言語 Workshop 2 「口蓋裂言語評価」Japanleft 口蓋裂言語評価のめざすもの: Asia-Pacific 圏における口蓋裂言語評価の現状	学会発表	2018年 5 月	第42回日本口蓋裂学会 学術集会(大阪)	杉山千尋, 藤原百合, 鈴木恵子, 今井智子, 木村智江, 山下夕香里, 緒方祐子, 武井良子, 早川統子, 佐藤亜紀子, 今村亜子	
3. 音声言語 Workshop 2 「口蓋裂言語評価」Japanleft 口蓋裂言語評価のめざすもの: 口蓋裂言語評価の標準化に向けた多施設共同研究	学会発表	2018年 5 月	第42回日本口蓋裂学会 学術集会(大阪)	緒方祐子, 藤原百合, 鈴木恵子, 今井智子, 山下夕香里, 佐藤亜紀子, 木村智江, 武井良子, 早川統子, 杉山千尋, 今村 亜子	
4. 音声言語 Workshop 2 「口蓋裂言語評価」Japanleft 口蓋裂言語評価のめざすもの: Japanleft 委員会口蓋裂言語評価ワーキンググループ(WG)の活動報告	学会発表	2018年 5 月	第42回日本口蓋裂学会 学術集会(大阪)	藤原百合, 鈴木恵子, 今井智子, 木村智江, 山下夕香里, 緒方祐子, 武井良子, 早川統子, 佐藤亜紀子, 杉山千尋, 今村亜子	
5. 未手術粘膜下口蓋裂症例の臨床的研究(第6報) 幼少期の言語評価について	学会発表	2018年 5 月	第42回日本口蓋裂学会 学術集会(大阪)	森 智子, 井村英人, 井上知佐子, 早川統子, 相原喜子, 大久保瑞姫, 吉田磨弥, 佐久間千里, 新美照幸, 南 克浩, 古川博雄, 夏目長門	
6. 口唇、口蓋裂児と両親に対する計量心理学的研究(第11報) 児に対する不安	学会発表	2018年 5 月	第42回日本口蓋裂学会 学術集会(大阪)	相原喜子, 井上知佐子, 森 智子, 早川統子, 大久保瑞姫, 齋藤直樹, 井村英人, 新美照幸, 古川博雄, 片山和男, 夏目長門	
7. Language ENvironment Analysis system (LENATM) の日本語使用の妥当性評価	学会発表	2018年 6 月	第19回日本言語聴覚学会(富山)	早川統子, 牧野日和, 夏目長門, 山本正彦, Adriane Baylis	
8. Telepractice の言語訓練の臨床応用に向けた試み	学会発表	2018年 6 月	第19回日本言語聴覚学会(富山)	早川統子, 山内楓子, 牧野日和, 井上知佐子, 相原喜子, 山本正彦, 夏目長門	
9. Language home environment of young children with 22q11.2 deletion syndrome	学会発表	2018年 7 月	The 11th Biennial International 22q11.2 Conference (Whistler, British Columbia, Canada)	Toko Hayakawa, Caitlin Cummings, Meghan O'Brien, Adriane Baylis	
10. Phonetic and phonological analysis of speech in infants and toddlers with 22q11.2 deletion syndrome	学会発表	2018年 7 月	The 11th Biennial International 22q11.2 Conference (Whistler, British Columbia, Canada)	Caitlin Cummings, Toko Hayakawa, Adriane Baylis	

11. Vocal Output and Parent Input: A LENA Study of Speech in Young Children with 22q11DS	学会発表	2018年7月	The 11th Biennial International 22q11.2 Conference (Whistler, British Columbia, Canada)	Adriane Baylis, Caitlin Cummings, Meghan O'Brien, <u>Toko Hayakawa</u> , Jessa Reed, Derek Houston	
12. "Surgical Management of VPD around the world: Panel" VPD Treatment in Japan - Aichi Gakuin University CLP Center -	学会発表	2018年9月	2nd International Velopharyngeal Dysfunction Symposium (Columbus, Ohio, USA), Invited Speaker	Toko Hayakawa	

古川博雄

B (論文)					
著書, 論文等の名称	単著 共著	発行・ 発表年月	発行所, 発表雑誌 (及び巻号数)等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数
1. 小児口腔疾患における言語病名	共著	2017年11月	小児口腔外科, 27(3)	夏目長門, 早川統子, 相原喜子, 井村英人, 牧野日和, 大久保瑞姫, <u>古川博雄</u> , 新美照幸, 高橋真理子, 鬼頭敏幸	pp.147 - 151
2. Reconstuction after resection of carcinoma of the lower lip	共著	2018年1月	British Journal of Oral and Maxillofacial Surgery, 56	H.Imura, <u>H.Furukawa</u> , C.Sakuma, M.Yoshida, N.Natsume	pp.153 - 154
3. 認知症高齢者等への口腔ケア技術提供事業	単著	2018年2月	医科学応用研究財団研究報告, 35巻	古川博雄	pp.107 - 111
4. 神経発達障害における行動特性・感覚処理と認知機能の多様性に関する検討	共著	2018年3月	心身科学, 10巻1号	石川仁美, 牧野日和, 町田祐子, 早川統子, <u>古川博雄</u> , 辰巳 寛, 山本正彦	pp.63 - 76
5. 先天異常に関する疫学的研究 愛知・岐阜・三重県の先天異常発生頻度に関する2016年調査報告	共著	2018年5月	愛知県産婦人科医学会報, 71	夏目長門, 井村英人, 佐久間千里, 藤原久美子, 新美照幸, <u>古川博雄</u> , 南 克浩, 鈴木 聡, 吉田磨弥, 森 明弘, 山内楓子, 早川統子, 井上知佐子, 牧野日和, 森 智子, 相原喜子, 吉川史隆	pp.90 - 91
D (学会発表等)					
演題の名称	発表形式	発表年月	学会等名称, 開催地	発表者	
1. Research about congenital anomalies in Ethiopia	学会発表	2017年11月	11th World Cleft Lip/Palate and Craniofacial Congress (Wuhan, China)	Hideto Imura, <u>Hiroo Furukawa</u> , Satoshi Suzuki, Maya Yoshida, Fuko Yamauchi, Kazuhide Nishihara, Toko Hayakawa, Akira Arasaki, Nagato Natsume	
2. Medical mission trips, establishing the honorary consulate and research study for cleft lip and palate in Ethiopia	学会発表	2017年11月	11th World Cleft Lip/Palate and Craniofacial Congress (Wuhan, China)	Nagato Natsume, Hideto Imura, Toko Hayakawa, <u>Hiroo Furukawa</u> , Kazuhide Nishihara, Akira Arasaki, Fuko Yamauchi, Sadamichi Matsumoto	

3. エチオピア連邦民主共和国における先天異常に関する研究(第4報)	学会発表	2017年11月	第29回一般社団法人日本小児口腔外科学会総会・学術大会(新潟)	古川博雄, 鈴木 聡, 吉田磨弥, 山内楓子, 井村英人, 新美照幸, 夏目長門	
4. Importance of medical assistance and research in the African continent-Medical cooperation and academic research for cleft lip and palate in the Federal Republic of Ethiopia-	学会発表	2018年4月	12th World Congress of the International Cleft Lip and Palate Foundation (Leipzig, Germany)	Nagato Natsume, Hideto Imura, Toko Hayakawa, Kazuhide Nishihara, Akira Arasaki, Fuko Yamauchi, Maya Yoshida, Satoshi Suzuki, Naoki Takahashi, Toshiro Kibe, DuyTran Le, Hiroo Furukawa	
5. Survey about baby's "thinning" of cleft lip and palate patients in Ethiopia	学会発表	2018年4月	12th World Congress of the International Cleft Lip and Palate Foundation (Leipzig, Germany)	Hideto Imura, Hiroo Furukawa, Satoshi Suzuki, Toko Hayakawa, Maya Yoshida, Fuko Yamauchi, Kazuhide Nishihara, Akira Arasaki, Nagato Natsume	
6. 未手術粘膜下口蓋裂症の臨床的研究第6報 幼少期の言語評価について	学会発表	2018年5月	第42回日本口蓋裂学会総会・学術集会(大阪)	森 智子, 井村英人, 井上知佐子, 早川統子, 相原喜子, 大久保瑞姫, 吉田磨弥, 佐久間千里, 新美照幸, 南 克浩, 古川博雄, 夏目長門	
7. 口唇口蓋裂センターにおける出生前カウンセリングの現状 2012-2017年報告	学会発表	2018年5月	第42回日本口蓋裂学会総会・学術集会(大阪)	井村英人, 夏目長門, 鈴木 聡, 吉田磨弥, 森 明弘, 伊東雅哲, 秋山泰範, 南 克浩, 新美照幸, 古川博雄	
8. 口唇、口蓋裂児と両親に対する計量心理学的研究-第11報: 児に対する不安-	学会発表	2018年5月	第42回日本口蓋裂学会総会・学術集会(大阪)	相原喜子, 井上知佐子, 森 智子, 早川統子, 大久保瑞姫, 齋藤直樹, 井村英人, 新美照幸, 古川博雄, 片山和男, 夏目長門	
9. 第61報: 東海地区における2016年の本症出征調査報告	学会発表	2018年5月	第42回日本口蓋裂学会総会・学術集会(大阪)	井村英人, 夏目長門, 佐久間千里, 早川統子, 吉田和加, 齋藤直樹, 藤原久美子, 鈴木 聡, 古川博雄, 南 克浩, 新美照幸, 吉田磨弥, 森 明弘, 山内楓子, 伊東雅哲, 秋山泰範, 夏目長奈	
10. 日本人非症候性口唇口蓋裂におけるBMP4遺伝子の一塩基多型(rs444235)遺伝子多型解析	学会発表	2018年5月	第42回日本口蓋裂学会総会・学術集会(大阪)	森 明弘, 井村英人, 鈴木 聡, 吉田磨弥, 古川博雄, 新美照幸, 佐久間千里, 伊東雅哲, 南 克浩, 秋山泰範, 早川統子, 夏目長門	

11. 未手術粘膜下口蓋裂症例の臨床的研究 - 第7報 未手術患者15例の長期経過について -	学会 発表	2018年 6月	第43回(公社)日本口腔 外科学会中部支部学術 集会(名古屋)	森 智子, 新美照幸, 井上知佐子, 早川統子, 相原喜子, 大久保瑞姫, 井村英人, 吉田磨弥, 佐久間千里, 南克浩, 齋藤直樹, 古川博雄, 夏目長門	
12. 口唇・口蓋裂に関する実験的研究 第130報 チーズ摂取が口唇・口蓋裂自然 発生系マウスに及ぼす影響	学会 発表	2018年 7月	第58回日本先天異常学 会学術集会(東京)	Tran Le Duy, 新美照幸, 古川博雄, 井村英人, Chimedtseren Ichinnorov, 吉田磨弥, 永田映里佳, Hoang Viet, 夏目長門	
13. 口蓋裂を有する Stickler症候群同朋 4 例の言語評価	学会 発表	2018年 7月	第58回日本先天異常学 会学術集会(東京)	森 智子, 井上知佐子, 早川統子, 相原喜子, 大久保瑞姫, 井村英人, 南 克浩, 新美照幸, 古川博雄, 夏目長門	
14. 高齢者に多い口腔症状とその対策	講演 会	2018年 7月	平成30年度 かすがい熟 年大学 健康科学コース (愛知)	古川博雄	

牧野日和

A (著 書)					
著書, 論文等の名称	単著 共著	発行・ 発表年月	発行所, 発表雑誌 (及び巻号数)等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数
1. 摂食嚥下機能の知識と食支援	単	2017年12月	株式会社明治, おいし いね77		pp. 1 - 2
2. 命の質に思いをはせて…… 人生最後の食事「お食い締め」	単	2018年 3月	婦人公論1490		pp.36 - 39
3. 最期まで口から食べるために② 胃ろ うから経口摂取を始める・看取り期を支え るお食い締め支援	単	2018年10月	全国高齢者施設看護師 会		全74頁
4. 私が管理栄養士に期待したいこと	単	2018年 9月	メディカ出版, ニュー トリシヨンケア11(9)		p. 8
B (論 文)					
著書, 論文等の名称	単著 共著	発行・ 発表年月	発行所, 発表雑誌 (及び巻号数)等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数
1. 人生最後の食支援を問う「お食い締め」 ～死から生まれるもの	単	2018年 9月	メヂカルフレンド社, 看護技術64(10)		pp.56 - 67
2. 言語聴覚士による口腔ケアの実績と課 題	共	2018年 9月	言語聴覚研究64(10)	牧野日和, 早川統子, 山本正彦, 夏目長門	pp.148 - 154
D (学会発表等)					
演題の名称	発表 形式	発表年月	学会等名称, 開催地	発表者	
1. その食形態は対象者の口に合ってい ますか	基調 講演	2017年11月	石川県栄養士会2017, 金沢市		
2. 療養から終末期にかけての食支援	基調 講演	2017年12月	兵庫県言語聴覚士会, 2017, 神戸市	早川統子, ベイリスエ イドリアン, 牧野日和, 夏目長門, 山本正彦	
3. ライフサイクルでみる終末期の摂食嚥 下支援	基調 講演	2017年12月	宮崎県言語聴覚士会, 2017, 宮崎市		
4. ライフサイクルでみる終末期の摂食嚥 下支援	基調 講演	2018年 1月	和歌山県言語聴覚士 会, 2018, 和歌山市		
5. 専門的口腔ケア	基調 講演	2018年 1月	広島県介護支援専門員 会, 2018, 広島市		
6. その食形態は対象者の口に合ってい ますか	基調 講演	2018年 2月	石川県言語聴覚士会 2018, 金沢市		

7. その食形態は対象者の口に合っていますか	基調講演	2018年3月	全国精神科栄養士協会 2018, 三重市		
8. その食形態は対象者の口に合っていますか	基調講演	2018年3月	岩手県栄養士会2018, 盛岡市		
9. 陥りやすい誤解を解く！摂食嚥下のメカニズム	基調講演	2018年4月	第15回日本口腔ケア学会, 福岡市		
10. ライフサイクルでみる終末期の摂食嚥下支援	基調講演	2018年6月	岐阜県言語聴覚士会, 2018, 岐阜市		
11. Telepracticeの言語訓練の臨床応用に向けた試み	学会発表	2018年6月	第19回日本言語聴覚学会, 富山市	早川統子, 山内楓子, 牧野日和, 井上佐知子, 相原喜子, 山本正彦, 夏目長門	
12. Languge Environment Analysis system(LENA)の日本語使用の妥当性評価	学会発表	2018年6月	第19回日本言語聴覚学会, 富山市	早川統子, ベイリスエイドリアン, 牧野日和, 夏目長門, 山本正彦	
13. 摂食嚥下障害 その他②	座長	2018年6月	第19回日本言語聴覚学会, 富山市		
14. その食形態は対象者の口に合っていますか	基調講演	2018年8月	東京都社会福祉協議会 2018, 東京都		
15. その食形態は対象者の口に合っていますか	基調講演	2018年8月	全国精神科栄養士協会 2018, 東京都		
16. その食形態は対象者の口に合っていますか	基調講演	2018年9月	青森県歯科衛生士会 2018, 青森市		

山本正彦

B (論 文)					
著書, 論文等の名称	単著 共著	発行・ 発表年月	発行所, 発表雑誌 (及び巻号数)等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数
1. Clinical significance of cognitive rehabilitation and psychoeducational intervention for family caregivers of patients with posterior cortical atrophy: a longitudinal study	共著	2018年1月	Psychogeriatrics.18 (1)	Tatsumi H., Yamamoto M., Yasui K., Miyake T	pp.77 - 78
2. 神経発達障害における行動特性・感覚処理と認知機能の多様性に関する検討	共著	2018年3月	心身科学. 10巻1号	石川仁美, 牧野日和, 町田祐子, 早川統子, 古川博雄, 辰巳 寛, 山本正彦	pp.63 - 76
3. 胸部食道癌術後における重度嚥下障害の病態とリハビリテーション	共著	2018年3月	心身科学. 10巻1号	木村 航, 辰巳 寛, 高津 淳, 牧野日和, 山本正彦	pp.55 - 61
4. 言語聴覚士による口腔ケアの実情と課題 - アンケート調査結果報告 -	共著	2018年9月	言語聴覚研究. 15巻 3号	牧野日和, 早川統子, 山本正彦, 夏目長門	pp.148 - 154
5. Comprehensive tool to assess oral feeding support for functional recovery in post-acute rehabilitation	共著	2018年	JAMDA 2018	Waza M., Maeda K., Katsuragawa C., Sugita A., Tanaka R., Asako Ohtsuka A., Matsui T., Kitagawa K., Kishimoto T., Fukui H., Kawai K., Yamamoto M., Isono M	in press

C (翻訳・資料)					
著書, 論文等の名称	単著 共著	発行・ 発表年月	発行所, 発表雑誌 (及び巻号数)等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数
1. 摂食嚥下機能に対応する嚥下調整食の設定に関する研究(第1報) 嚥下量による嚥下パターンの変化	共著	2018年3月	心身科学, 10巻1号	牧野日和, 高津 淳, 野村麻優子, 山本正彦	pp.95 - 96
D (学会発表等)					
演題の名称	発表 形式	発表年月	学会等名称, 開催地	発表者	
1. パーキンソン病患者の発話機能に対して視床下核脳深部刺激術が与える影響	学会 発表	2018年6月	第19回日本言語聴覚学会, 富山	田中康博, 坪井 崇, 渡辺宏久, 中坪大輔, 前澤 聡, 加藤祥子, 服部 誠, 佐藤茉紀, 原 一洋, 川畑和也, 大嶽れい子, 山本正彦, 勝野雅央, 祖父江元	
2. Language ENvironment Analysis system (LENATM) の日本語使用の妥当性評価	学会 発表	2018年6月	第19回日本言語聴覚学会, 富山	早川統子, 牧野日和, 夏目長門, 山本正彦, Adriane Baylis	
3. Telepracticeの言語訓練の臨床応用に向けた試み	学会 発表	2018年6月	第19回日本言語聴覚学会, 富山	早川統子, 山内楓子, 牧野日和, 井上知佐子, 相原喜子, 山本正彦, 夏目長門	
4. 視床下核脳深部刺激術後に発話障害を呈すパーキンソン病患者の臨床背景 - 2年の縦断研究 -	学会 発表	2018年7月	第12回 パーキンソン病・運動障害疾患コンgres, 京都	田中康博, 坪井 崇, 渡辺宏久, 中坪大輔, 前澤 聡, 加藤祥子, 服部 誠, 佐藤茉紀, 原 一洋, 川畑和也, 大嶽れい子, 山本正彦, 勝野雅央, 祖父江元	
5. KTBC®導入により回復期リハ病棟アウトカムが向上～ Historical study	学会 発表	2018年7月	第6回 NPO 法人「口から食べる幸せを守る会」全国大会, 横浜	和座雅浩, 前田圭介, 桂川智宏, 杉田敦子, 田中亮太郎, 大塚亜沙子, 松井 友, 北川啓子, 河合克尚, 岸本泰樹, 福井博子, 山本正彦, 磯野倫夫	
6. 食道癌術後の嚥下障害増悪因子に関する検討	学会 発表	2018年9月	第24回日本摂食嚥下リハビリテーション学会学術大会, 仙台	高津 淳, 青山寿昭, 山本正彦, 吉田雅博, 安部哲也	
7. KTBC®を用いた実施プログラムのリハアウトカムと栄養指数への影響	学会 発表	2018年9月	第14回日本神経筋疾患摂食嚥下栄養研究会 (JSDNNM) 学術集会, 名古屋	和座雅浩, 桂川智宏, 大野敦子, 河合克尚, 山本正彦, 磯野倫夫	

渡辺輝也

D (学会発表等)					
演題の名称	発表 形式	発表年月	学会等名称, 開催地	発表者	
1. 愛知県教育委員会 子どもの体力向上運動プログラム実技講習会【甚目寺】	講習 会講 師	2017年12月	愛知県教育委員会, 甚目寺総合体育館	渡辺輝也	
2. 愛知県教育委員会 子どもの体力向上運動プログラム実技講習会【豊川】	講習 会講 師	2018年2月	愛知県教育委員会, 豊川市総合体育館	渡辺輝也	
3. 愛知県教育委員会 体育スポーツ実践講座「体づくり運動のねらいと行い方」	講習 会講 師	2018年8月	愛知県教育委員会, 名古屋健康ドーム	渡辺輝也	